【美原かるた　解説】

「あ」　阿弥陀寺

聖徳太子によって創建と伝えられます。本尊が、阿弥陀如来であるので、阿弥陀寺と言われています。嘉暦年間（一三二六～九）に兵火に合い、次第に衰退し、明治六年（一八七三）に一旦廃寺となりますが、その後復興され現在に至ります。

境内にあるススキ（糸薄）は、「ますほのススキ」と呼ばれ、平安時代末期の僧登蓮法師にゆかりがあると伝えられ、

「秋毎に　穂に出てまねけ　糸薄
　　くる人ことの　かたみとみん」

と詠んだ歌は有名です。

「い」　角右衛門治水頌徳碑

江戸時代の末期、干ばつに苦しむ村人の窮状を見かねた菅生村の角右衛門は、禁令を犯して池を掘りました。村人たちは、そのことを口外しなかったようですが、やがて、幕府の知るところとなり、角右衛門は、捕えられ、江戸へ送られて処刑されたと伝えられています。碑は昭和二六年（一九五一）に建てられたもので、現在も地元の方々によって守られています。

文書などは、残っていませんが、当時、美原地域は、支配者が多く分かれており、水争いが絶えなかったことを示しています。

「う」　黒姫山古墳

全長一二四㍍の墳丘を持ち、前方部を西側に向ける二段築成の前方後円墳です。現在は、埋まっていますが、築造当時は、一二重濠であったことが確認されています。

後円部の埋葬施設は、盗掘により破壊されていましたが、前方部から人体埋納を伴わない石室（石槨）が発見され、鉄製甲冑（よろい・かぶと）が二四領発見されました。二四領という数は、一つの古墳から発見された数としては、日本一を誇り、堺市有形文化財に指定されています。

「お」　薬師如来像（平松寺）

「小寺薬師」と通称されています。厨子の中に納められており、秘仏扱いをされており、その詳細はあまり知られていません。大きさは、半丈六像（一六八・二㌢）で、寄木造で、漆箔仕上げを施しています。後世の修理の後は、見ますが、製作年代としては、十一世紀後半頃と推定され、宇治平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像によく似ていることから、大仏師定朝に近い立場の仏師の手によるものと推察されます。堺市有形文化財に指定されています。また、平松寺は、平安時代の文書に出てくる「長和寺」との関係が指摘されており、現在、境内にその名が刻まれた五輪塔の地輪の部分が残っています。

「き」　阿弥陀来迎図

城岸寺の秘仏「阿弥陀来迎図」は、通称「タクマさん」と呼ばれ、飛雲に乗る阿弥陀如来が、金泥で描かれています。

切れ長の目の表現や、着衣形式などから、鎌倉時代後半の製作と推定されています。また、城岸寺周辺の小字名に「城ケ池」・「城の北」などが残っていることや、古文書に「大饗城」の記載があることなどから、南北朝時代には、城郭となっていたことが伺い知れます。

「さ」　法雲寺

禅宗の一派の黄檗宗の寺院で、慧極禅師が開祖と言われています。広い境内の中には、中国様式の山門や仏殿（本堂）などの多くの建物があります。本尊は、今津浄水によって寄進されたもので、過去、現在、未来を表わす、薬師如来坐像、釈迦如来坐像、阿弥陀如来坐像が、三千三百三十三体で、通称「三千仏」と呼ばれています。境内地は、狭山藩（北条氏）の領地で、北条氏に関係するものもたくさんあります。